

令和7年度「地域と学校の連携・協働体制構築事業」

●R7年度に本事業で重点的に取り組む課題に応じた目標等の設定様式

課題の類型1	課題の類型2	背景・現状・課題の詳細	左記課題の解決のために令和7年度に実施する具体的な取組	左記具体的な取組のうち、令和8年度における取組の評価・分析を踏まえた取組	本事業で達成する目標（アウトカム）	目標の達成度を測る指標	現状の数	単位	目標値の 本年度の	実績値の 本年度の	アウトカムの達成度に関する評価・分析 （事業における成果、課題、改善点等）	
③学校と家庭の課題	01 家庭等における学習習慣の定着	基礎的な学力や家庭での学習習慣が十分に身につけていない中学校1～3年生の学習習慣の確立と基礎学力の定着及びその指導に係る教員の負担が課題となっている。	京都市中学校全72校で放課後学習教室を例年実施	京都市立の全中学校で平日の放課後や、長期休業中、地域の方々や教員志望の学生、退職教員等の協力により学習機会を提供する。	放課後の学習指導に係る教員の負担軽減。	年間を通じて月80時間超えが「ゼロ」の教員の割合（全校種）	91.5(R6)	%	100	91.9(R7)	03 本年度の目標値を達成し、課題の改善が見られた	地域の方々や教員志望の学生、退職教員等の協力により、教員の負担軽減につながった。 成果として、基礎基本の内容の定着や学習意欲の向上、学習習慣の確立などがみられた。 課題として、参加生徒の出席率や学習ボランティアの確保などが挙げられる。 引き続き各校と連携しながら本事業の周知等に努める。
②学校と地域の課題	03 学校支援ボランティアの確保・育成	放課後学習を行う機会を確保することを目的に放課後まなび教室（放課後子供教室）を地域を中心としたボランティアにより実施しているが、地域のボランティア数が足りず、運営上の負担が大きくなっている教室がある。	広報媒体での周知及び大学への募集チラシの配架依頼を行う。	京都市が発行する広報物等を活用することで、広く募集を周知した。また、ボランティアセンターを置く大学に限らず京都市内の各大学等に対し、学習サポーター募集のチラシを配架することで、学生ボランティアの確保に努めた。	・地域との協働が進み、学校（教員）の運営負担が軽減する。 ・実施回数を増やすことが可能となり、児童の学習の機会が増加する。	1年間に新規登録されたボランティア数	41	人	45	127	03 本年度の目標値を達成し、課題の改善が見られた	・京都市が発行する広報物等に加え、kintoneアプリを活用しスマートフォンからの申込みを可能とすることで、広く周知した結果、1年間に新規登録されたボランティア数は目標を上回った。 ・一方で、地域によっては引き続きボランティア数が不足している教室があるため、個別にボランティア数が不足している要因を分析し、十分な実施体制を確保できるようボランティアの確保を実現したい。